

御室流華道

仁和寺は生花の御室流の拠点である。御室流は日本の第 59 代天皇である宇多天皇（867～931 年）が創始者である。御室流という名前がつけられたのは約 70 年前と最近のことだが、御室流の生け花は何世紀にもわたって仁和寺で実践されてきた。中世の時代には、有名な華道家の多くが仁和寺と関係があり、そのため、仁和寺での生花の伝統はややオーソドックスな傾向がある。しかし、仁和寺の正統派の中にも多くのバリエーションが存在する。花を活けるときは、「伝統的」なスタイルにしたがって活ければよい。この「伝統的なスタイル」では、植物が自然の中にある姿を模倣するために、どの花をどの角度に置くかが決められている。しかしながら、伝統的な慣習から離れて、自分の好みにしたがって花を活けることも許されている。このような柔軟性が、御室派が今日まで繁栄し続けることができた理由である。